

平成 21 年 9 月 10 日

9 月定例所長会見における高橋所長挨拶内容

○ 所長の高橋でございます。本日、私からは 3 点申し上げます。

○ まずは、「6 号機のプラント全体の機能試験」についてです。

当社は、7 月 3 日に新潟県、柏崎市、刈羽村に対して、当発電所 6 号機の運転再開をお願いさせていただきましたが、8 月 25 日、安全協定に基づき、泉田新潟県知事、会田柏崎市長、品田刈羽村長より、6 号機の運転再開につきましてご了解を賜りました。

これを受け、当発電所では、8 月 25 日より 6 号機のプラント全体の機能試験を開始し、翌 26 日に原子炉を起動いたしました。その後、各段階において、計画した試験を実施し、試験結果に問題がないことを確認しております。

これまでの間に発電機出力約 75%の状態における評価まで完了し、現在、出力上昇操作を実施しているところですが、本日には発電機出力約 100%に到達し、その評価結果をお知らせする予定です。評価結果に問題がなければ、その後はさらに出力上昇操作を行い、定格熱出力一定運転とした状態で、計画した試験を進めてまいります。順調にいけば、明日の未明に定格熱出力に到達し、その評価結果を 9 月 14 日にお知らせする予定です。

当発電所といたしましては、今後も、安全を第一として、慎重に 6 号機のプラント全体の機能試験を進めてまいります。

○ 2 点目は、「7 号機の点検・評価の進捗状況」についてです。

7 号機につきましては、7 月 23 日に一部の燃料棒から放射性物質の漏えいが確認されました。その後、出力抑制法により漏えい燃料からの放射性物質の漏えいを抑制した状態でプラントの運転状態を評価した結果、7 号機は定格熱出力状態においても、漏えい燃料近傍の制御棒を挿入した状態で運転を継続することに安全上の問題はないものと判断いたしました。当社は、この内容を 8 月 19 日に中間報告としてとりまとめ、国および地元自治体へ報告しております。

中間報告した内容につきましては、同日、原子力安全・保安院ならびに原子力安全委員会より、「漏えい燃料の出力抑制による定格熱出力での運転状態においても各種測定値から原子炉の状態は安定しており、安全上の観点からの問題はない」「しばらくの間、出力抑制が適切に行われていることを確認するとともに、知見の拡充を行うために、関連データを採取することは、適切である」との評価をいただいております。

このため、当発電所は、燃料棒からの放射性物質の漏えい抑制が適切に行われ安定した状態を維持していることを引き続き監視しながら、慎重に運転を継続し1ヶ月間程度、運転・監視データの採取・蓄積を行い、知見の拡充を図ることといたしました。

また、7号機は中越沖地震後初めて起動したプラントであること等を総合的に勘案し、通常定期検査時期を待たずに、9月下旬には原子炉を停止し、一部の燃料を取り替えることといたしました。原子炉停止後は、全ての燃料を調査して漏えい燃料を特定するとともに、漏えい燃料ならびに異物フィルタなしの燃料96体について、異物フィルタ付きの新燃料に取り替える予定です。

○ 3点目は、「業務用車両への電気自動車の本格導入」についてです。

当社は、これまで電気自動車の本格導入を目指し、自動車メーカーと実用性評価などの共同研究を実施するとともに、平成19年度経営計画から、保有する約8,500台の業務用車両のうち3,000台程度を電気自動車へ取り換える目標を掲げております。また、本年5月には、電気自動車の市販化の見通しなどを踏まえ今年度に電気自動車を310台程度導入する計画を発表いたしました。

当発電所におきましても、先月末から最新型の電気自動車の導入を開始しており今年度中に合計5台を導入する計画としております。

以 上

添付)

- ・ 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX
- ・ プレス公表（運転保守状況）

# 柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(平成21年9月)

平成21年9月10日

## ① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況										補足説明
			10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	
1号機 110万kW (S60.9.18運開)	第15回定期検査中 定検停止期間:H19.5.4~	第14回 H17.6.14~H18.5.30 停止期間 H17.6.14 ~ H18.4.30 (321日) (原子炉起動H18.4.26)	第15回定検による停止										[6号機] ・8月31日に発電開始。(お知らせ済み)
2号機 110万kW (H2.9.28運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H19.2.19~	第11回 H17.9.3~H18.5.9 停止期間 H17.9.3 ~ H17.12.25 (114日) (原子炉起動H17.12.22)	第12回定検による停止										
3号機 110万kW (H5.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H19.9.19~	第9回 H18.5.12~H18.9.15 停止期間 H18.5.12 ~ H18.7.27 (77日) (原子炉起動H18.7.24)	第10回定検による停止										
4号機 110万kW (H6.8.11運開)	第10回定期検査中 定検停止期間:H20.2.11~	第9回 H18.4.9~H19.1.11 停止期間 H18.4.9 ~ H18.12.14 (250日) (原子炉起動H18.12.11)	第10回定検による停止										
5号機 110万kW (H2.4.10運開)	第12回定期検査中 定検停止期間:H18.11.24~	第11回 H17.7.4~H17.11.2 停止期間 H17.7.4 ~ H17.10.8 (97日) (原子炉起動H17.10.8)	第12回定検による停止										
6号機 135.6万kW (H8.11.7運開)	第8回定期検査中 定検停止期間:H19.5.24~H21.8.31 現在調整運転中	第7回 H17.12.10~H18.5.12 停止期間 H17.12.10 ~ H18.4.13 (125日) (原子炉起動H18.4.10)	第8回定検による停止										
7号機 135.6万kW (H9.7.2運開)	第8回定期検査中 定検停止期間:H19.11.15~H21.5.20 現在調整運転中	第7回 H18.8.23~H19.1.11 停止期間 H18.8.23 ~ H18.12.5 (105日) (原子炉起動H18.12.2)	第8回定検による停止										

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

## ② 発電所設備利用率(%) (8月末現在)

8月	16.5%
21年度累計	10.3%
運転開始後累計	67.2%

## ③ 発電所発電電力量(万kWh) (8月末現在)

8月	101,048
21年度累計	309,811
運転開始後累計	80,501,647

## ④ ドラム缶発生量(本) (H21年度第1四半期)

当期発生本数	934
貯蔵庫累積貯蔵本数	25,332
貯蔵庫保管容量	45,000

## ⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (H21年度第1四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	12,380
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

## ⑥ 構内従業員データ(人) (9月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	834	3,016	39%
	刈羽村	104	326	4%
	その他	85	1,612	17%
	小計	1,023	4,954	61%
県外		132	3,723	39%
合計		1,155	8,677	-
		9,832		100%
協力企業社数(社)		1000		

※「比率」について端数処理の関係で数値と計が含まない場合がある。

## ⑦ 来客情報(人) (8月末現在)

	8月	年度累計
地元	1,894	7,178
県内	1,632	7,496
県外	3,755	14,231
国外	34	181
合計	7,315	29,086

## ⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
9月24日	フラエクササイズ教室(柏崎エネルギーホール)
9月24・25日	第136回名画鑑賞会(柏崎エネルギーホール)
10月8日	次回定例所長会見予定
10月11・12日	秋のふれあいイベント(サービスホール)
10月14日	花の球根の寄せ植え体験教室と発電所構内バス見学会(き・な・せ)
10月15・16・24日	編み物教室 [ 柏崎会場]10月15・16日(柏崎エネルギーホール) [ 刈羽会場]10月24日(き・な・せ) ]
10月18日	柏崎・夢の森公園「第7回森作り活動」!!(柏崎・夢の森公園)

インターネットホームページアドレス  
<http://www.tepco.co.jp/nu/kk-np/index-j.html>

東京電力株式会社  
 柏崎刈羽原子力発電所  
 広報部  
 0257-45-3131(代)

## プレス公表（運転保守状況） ～中越沖地震関連を除く～

平成21年9月10日  
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	6月23日	荒浜側洗濯設備建屋付近	荒浜側洗濯設備建屋付近（屋外）における油漏れについて（区分Ⅲ）	<p>（事象の発生状況） 平成21年6月22日午後3時12分頃、荒浜側洗濯設備建屋の南側（屋外）において、洗濯設備建屋の復旧作業のため周辺地盤を掘削していた協力企業作業員が、掘削機の油圧ユニット内のホースに亀裂があり、そこから作動油が漏れいし掘削穴に溜まっていることを確認しました。直ちに掘削機を停止し、作動油の漏れいは止まりました。漏れいした作動油は約75リットルでした。</p> <p>（安全性、外部への影響） 漏れた作動油は放射性物質を含んでおらず、本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） 掘削穴に漏れた作動油を回収しました。作動油が染み込んだ土壌は回収し、洗浄処理を完了しました。今後、油圧ユニット本体を交換します。 作動油が漏れた原因を調査した結果、油圧ユニット内のホースの直接見えない部分の確認方法を定めていなかったため、ホースの見える部分しか目視点検しておらず、確認が不十分であったことがわかりました。また、ホースの設置、交換時期について点検記録を作成していなかったため、経年劣化によるホースの亀裂に気が付かず、ホースから油が漏れ出したものと推定しました。 今後、油圧ユニット内のホースの確認方法・判断基準を明確にして全体を目視点検し、判断基準外のものとは交換するものとします。また、ホースの設置、交換時期について点検記録を作成し、交換時期に達するものは速やかに交換するものとします。なお、油圧ユニットから油が漏れいした場合でも地上に漏れないようオイルパンを設置するものとします。</p>
②	8月11日	4号機	原子炉建屋（非管理区域）における潤滑油漏れについて（区分Ⅲ）	<p>（事象の発生状況） 平成21年8月10日午前10時30分頃、定期検査中の4号機において、原子炉建屋地下1階の非常用ディーゼル発電機（B）室（非管理区域）で、点検のため取り外してあった潤滑油配管の端部に施した養生の下に床面に、潤滑油が漏れていることをパトロール中の当社社員が発見しました。潤滑油の漏れいは停止しており、床面に漏れた潤滑油は約720ccでした。</p> <p>（安全性、外部への影響） 漏れた潤滑油には放射性物質は含まれておらず、本事象による外部へ放射能の影響はありません。</p> <p>（対応状況） 床面に漏れた潤滑油については、拭き取りによる清掃を実施しました。床面に潤滑油が漏れた原因は、点検のために取り外した潤滑油配管の端部に施した油受け養生の固定が不十分であったため、溜まった潤滑油の重みで油受け養生が落下し、あらかじめ養生の下部に設置していた受け皿に潤滑油が回収されず、床面に漏れたものと推定しております。その後、取り外してあった潤滑油配管を仮復旧するとともに油受けを設置しました。 今後、油系統（配管・機器）の既設部分を取り外す場合は、原則閉止板を取り付ける、または取り外し当日中の復旧を実施することとしました。構造的に閉止板の取り付けが困難な箇所については、ビニール袋による養生を強固に実施するとともに、万が一の袋養生等の落下を想定して油受け（パン）の設置や床シート養生を実施することとしました。</p>

プレス公表（運転保守状況）  
～中越沖地震関連を除く～

平成21年9月10日  
定例所長会見資料

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
③	8月24日	4号機	排気筒付近（屋外）におけるけが人の発生について（区分Ⅲ）	—
④	9月3日	2号機	原子炉再循環系配管等の点検状況について（区分Ⅱ）	<p>（事象の発生状況） 当所2号機（沸騰水型、定格出力110万キロワット）は、第12回定期検査中ですが、応力腐食割れ対策を実施する予定の原子炉再循環系配管等の68継手について、施工前の検査として超音波探傷試験を行っております。 9月3日までに68継手の検査を実施した結果、1継手（1箇所）に長さ約12mm、深さ約2.9mmのひびが確認されました。</p> <p>（対応状況） このひびは応力腐食割れによるものと考えられ、今後、ひびが確認された同配管の継手については、健全性評価制度に基づいて評価いたします。</p>